



時代を超えて愛される 皇室の薫り漂う名勝地

皇室も愛した島郷の潮騒

御用邸とは、天皇皇后両陛下をはじめ、皇族方のご静養の場として使用されている別邸です。かつては沼津をはじめ、小田原・鎌倉・静岡・熱海などに存在しましたが、現在は那須御用邸、葉山御用邸、須崎御用邸の3カ所がその役目を果たしています。

沼津御用邸は、昭和44年まで、明治・大正・昭和の3つの時代に避寒静養地として利用されました。その後、本市に無償貸与され、昭和45年に記念公園として一般公開を開始し、令和2年の今年、公園開園から50周年を迎えます。現在、記念公園として一般公開されているのは沼津御用邸記念公園と栃木県の日光田母沢御用邸記念公園の2カ所のみとなっています。

沼津御用邸記念公園のある下香貫島郷は、波のおだやかな砂浜に面しており、夏は海水浴の人々で賑わい、ウイ

ンドサーフィンなどのマリンスポーツを楽しむ姿も見られます。秋から冬にかけては真っ赤に染まる夕日が美しく、水平線に映り込む様子を楽しめる「ダールマタ日」を拝むことのできるスポットとしても知られています。

自然景観の美しさと尊さ

島郷海岸は本市が誇る海辺の散策路「潮の音プロムナード」の一部となっており、私たち市民が潮騒を感じながらウォーキングを楽しむこともできます。散策路には、沼津が誇る文豪芹沢光治良の詩碑などがあります。島郷を含む風光明媚な風景は光治良の他にも多くの文化人に愛されており、まさに私たち沼津市民の誇りとなっています。

沼津御用邸記念公園は、平成28年に国の名勝に指定されました。旧御用邸苑地の風致景観が、クロマツ林を基調として、苑路や芝生地と美しく調和していること、また駿河湾の眺望が得られ、松原越しに富士山を望むことができることなど、名勝にふさわしい優れた自然景観が形成されていることが評価されたものです。これは私たち市民

が、鑑賞上価値の高い名勝地を、日々の暮らしの中で心置きなく楽しめるということに他なりません。

沼津のまちと御用邸

沼津は気候が温暖なうえ、前面には駿河湾、背後には富士山という風光明媚な地であることから別荘地として注目され、明治初期に大山巖元帥、川村純義海軍大將らの別荘が建てられました。加えて明治22年に東海道線が開通して、交通の便がよくなったことも沼津に御用邸が造営された理由のひとつと聞いていいでしょう。

市内にかかる「御成橋」は、はじめ港橋(または湊橋)と言われ、沼津市内で狩野川に架設された最初の橋でした。この橋は沼津御用邸造営後、皇族方が島郷に向かう道筋で、川を渡る際に通過した橋として「おなりばし」と改名されました。

市内には、他にも「御幸町」など皇室にちなんだ地名などがあり、沼津のまちと御用邸の縁を感じさせてくれます。私たち市民は、明治期以降、皇族方を敬いつつも身近に感じ、その恩恵を賜りながら豊かな文化を育み、美しい景観を楽しんできました。

公園開園50周年を迎える今、沼津御用邸の歴史とまちのあゆみを振り返ることで、今一度市民の誇りである名勝について紹介します。

◎緑地公園課

☎055・934・4796



写真は沼津観光ポータル内で展開する、沼津御用邸記念公園をPRするための「女子旅」をテーマとした特設ページから、園地内の「喫茶主馬」で撮影した1枚。市民ライターである浅沼春香さんによる撮影。また、P2上部の文鳥のモチーフは西附属邸の柱などに使われている釘隠し。